高津区おはなしアーカイブ

●山寺初江（やまでら　はつえ）さん

昭和２年生まれ　８７歳

川崎市高津区諏訪在住

◆ご自身について教えてください

昭和２４年２月のはじめ、結婚をして川崎市に来ました。それまでは福島で小学校の教諭をしていました。

高津でも先生をしようと思いまして、役所に行きましたら「県が違うからテストします」って言われ、その場で採用試験を受けました。

試験は教育勅語の内容が主で、徳器成就だとか、そういう基本的な問題でした。「これ読んでください。これは、どこに出ていましたか」など訊かれました。試験終了後に、その場で川崎市立高津小学校教諭を命ずるという辞令をいただきました。

その当時、高津小学校にイシドウ先生という方がいらして、その方が結婚されて辞められるのでちょうど空きがあったので、運良く採用され、高津小学校の教諭になりました。

◆当時の小学生について

はじめて受け持ったクラスは1年生でした。あの頃は、学校へ来るのにも親がついてきたり、親がいないと泣いてしまう子がいたり、今の子とは違って幼稚な子もおりました。

その当時高津小学校は、子どもの生まれ月でクラスを編成していて、私が受け持ったクラスは３月生まれが中心でした。だから、４月生まれの子とほぼ1年違うわけで。それで、体も小さくて、子どもっぽいと言うか、そういう子が多かった気がします。

◆当時の給食について

給食は、学校まで馬車がコッペパンを運んできていました。脱脂粉乳は先生方が交代で、大きな鍋で沸かしていました。３～４年経ってから、鯨のカツなどおかずがつくようになりましたけど、それまではパンにつけるマーガリンなどもなく、記念日の特別メニューもなく、コッペパンと脱脂粉乳だけでしたね。

◆当時の授業内容は

戦争が終わり、今までの教育を改め、その土地にあった新しいカリキュラムを作らなくてはいけなかったので、しょっちゅう研究授業をやっていました。川崎市内の先生が集まり、授業を見ていただきました。

国語と算数とに分かれて先生方が研究授業をします。授業を見て「ここはこうしたほうが良い」「ここはこうしよう」など、話し合ってカリキュラムを作っていきました。それを元にして、しばらく授業をやって。それから、また、いろいろ制度が変わって…。

あの頃は、何もかもが新しい教育でしたから、お年を召した先生方には大変なこともありました。新教育になる前は、割合穏やかに、のんびりとされていたのでしょうが、世の中がいろいろ変わっていきましたから。

私達のときは、土曜日の午後は必ず進度の打ち合わせをしていました。

ちょうど戦後のベビーブームで子どもの人数が多く、高津小学校も1クラス50人くらい。それが12クラスありました。だから国語はここからここまで、算数はここからここまでをこういうふうに、と決め、そこからはみ出したり、余計なことをしたりということはできませんでした。だから「ここをもうちょっとやりたい」と思っても、他の先生方と歩調を合わせないといけなかったので、我慢することも多かったです。

一番変わったのは体操です。それまでの「体操」は「体育」に替わって、単純な手の運動とか足の運動ではなく、物語を作るんです。たとえば、「さあ、今日はみなさん秋晴れの良い天気ですね、さぁ、あの山に登りましょう」とか、山を登る途中に「さぁ、池がありましたよ、あひるが泳いでいましたよ」、って言ってあひるの泳ぎ方とか、手の動きを入れていくんです。「山に登りました。風が吹いてきましたよ」とか、「木が揺れます」とか、そんなふうにして、物語に合わせた手の運動、足の運動を入れていきました。

◆小学校は二部制

子どもの数が多いので、当時は教室が足りていませんでした。戦後、一番子どもが多いときでしたから、小学校も2部制でした。遅番と早番とに分かれ、1週間交代でした。

早番は朝の8時から、遅番は午後1時くらいからでしたが、遅番の子も早くから学校に来て、廊下に鞄を置いて、お昼ごはんも食べずに校庭で遊んでいましたね。

◆高津小学校の学区域は

あの頃はまだ東高津小学校がありませんでしたから、遠い子では身代わり不動（下作延）の近所から来ていました。向ヶ丘に行く道路からこっちくらいは全部高津小学校の学区域で、下野毛とか北見方、梶ケ谷ぐらいまでになるのかしら。こちらは久本ですか、今洗足の先の方からですね。歩いたら子どもの足で30分くらいはかかりました。

家庭訪問は、よく畑のなかのあぜ道を通って行くことがありました。

◆子どもたちの様子

あの頃、全然しゃべらない子が一人いましてね。で、本当に困って、家庭訪問したことがあります。何を聞いても何も言わない子がいたんです。それから私のクラスではないんですけど給食を絶対食べない子もいました。ほかの先生のクラスの子なのですけどね。「あなたならきっと食べさせられるから私の教室にちょっと来てよ」、って言われて行ってもやっぱりその子食べなかったんですね。

結局、担任が変わったからだと思うんですよ。クラスが変わっちゃって、先生も替わって。だから人見知りが激しくて。お友達とは話すのですが、なんて言うのかしら、先生はちょっと話しにくかったんじゃないでしょうか。

私はほとんど、低学年ばかり担任していました。「面倒見の良い先生」とか言われて、1年生を受け持つことが多かったんです。ひとり、すごく

男の子でいたずらな子がいて、教室に入らないで、職員室の廊下に寝そべっちゃう。それで、職員会議が終わって教室に入りましょうっていうのに、絶対入らない子がひとりいたんですね。それで、クロカワっていう男の先生に抱いてもらって教室に入れてもらうのね。そうすると、先生が戸を開けると、戸を「バンッ」て叩いて、入って行くいたずらっ子がいたんです。

でも、私が学校を辞めるって言ったら、その子は毎日私のところに「辞めるな、辞めるな」って言いに来たんです。朝からず～っと来て、ちょっとまた帰って、夕方また来て「辞めるな、辞めるな」って言いに来てね…、そういう子がいました。

◆運動会について

大変だったのは、各学年必ず「お遊戯」をやることでした。フォークダンスのような踊りなのですが、それをみんなの前で踊れるように、指導するのが難しかったです。

あとはかけっことか、紅白の玉入れとか、それから綱引きとか、棒倒しなど、だいたいどこの学校も同じ種目でした。

ただ、そのみんなで踊る「お遊戯」がとても大変だったのを覚えています。

◆当時の遠足について

遠足はありました。1、2年生は向ヶ丘遊園です。あと、受け持ったのが低学年ばかりでしたから多摩川（園）二子玉川（園）とか、遊園地みたいなところに行っていました。親御さんが二人くらいついてくることもありました。

◆思い出に残っているエピソードは

久本に住んでいた男の子は、お母さんが具合が悪くて入院していて、お父さんと二人きりで。ちょっと知恵遅れだったのか、今でいう知的障害児というのでしょうか、そういう子がいて…、その子が可哀想だったので、しょっちゅう私、家に呼んでいました。卒業してからも、何回か私のところに訪ねてきました。成人式のとき、お父さんがお赤飯を炊いて子どもと一緒に持ってきたんですね。それから一日中私のところにお父さんとふたりでいてもらって、私も出来るだけのことをしてあげた覚えがあります。お母さんが亡くなって。ときどきお父さんと来ていたことがありましたね。

あんな時代ですから、今の子と違いますから、先生の言うことは良く聞いて、そんなに心配することはなかったと思いますね。

なかにはどうにもならない、しゃべらないとか、給食を食べないとか、そういう子は必ずいましたね、それと、学年主任の先生が、あの先生なら面倒見が良いから、とか言って私のクラスに2人くらい手がかかる子を任せてくれたことはありました。でも、どうにもならないってことはなかったですね

ただ、いたずらはありましたね。廊下を土足で入っちゃダメ、と言ってもわざとバタバタとか。職員室の廊下に寝そべって、教室に入らないという子とか、そういう子はいましたけど、特別そんなに悪いって子はいないし。その子達も、授業がはじまったらちゃんと授業は受けている。教室で邪魔をするようなことはなかったです。今の子とはだいぶ違いますね。

◆街の様子はどう変わっていきましたか

昔は、お風呂屋さんがすぐそこにありました。お風呂屋さんに通っていましたね、ここら辺も、今はもう商店街がだいぶ少なくなってきましたけど一時は結構多かったですよ。

でも、私達が来た当時はお店もほとんどありませんでした。八百屋さんとか魚屋さんとかは私達が来た頃にちょうどお店をだしたくらいでね。その角にちょうど一本松っていう大きな目印があったんです、今はなくなってしまいましたが、諏訪の一本松ですね。その下のところにサカモト商店っていうお店もありました。前は駄菓子屋さんだったんですけどね、それが酒屋さんになって、今は子どもの代になって商売はやめてしまったんです。

商店街も、いろいろな店ができたんですけどね、駅の方に行く2～3軒目あたりには、銀行の支店もあったんですけど、それももう5～6年くらいでやめちゃったのかな、やっぱり採算が合わなかったのかな。

最近は、だいぶ商店も、古いお店もなくなってきちゃいましたね。

私が若い頃には二子玉川までお使いに行きました。溝口よりも二子玉川まで行くことが多かったです。

タオルを持って、橋の上には行かずに、多摩川を歩いて渡っていました。もちろん、川の水があんまりないときに。今は結構水量も多いけど、当時は今みたいに水が多くなかったので、タオル持ってね。ちょうどパン屋さんが一軒、二子玉川の駅前にあったんですよ。だから溝口よりもそちらのほうに行きましたね。

ここで、お買い物をするって言ったら、二子の大山街道。だけど二子の通りだってね、昔は農家が多かったんです。いわゆる商店は少なかったです。だから、二子玉川に戦後できたマーケット、バラックを建てたマーケット、そういうところに買い出しに行っていました。

◆食糧事情について

小学校の裏門から出たところに金物屋さんがあって、その前でジャガイモとか配給していました。よく学校から抜け出してもらったことがありました。それから三田さんって、文房具屋さんの向かい方に、コマスヤさんかな、その裏の方に闇米を売っている方がいて、そこに買いに言った覚えがありますね。配給はジャガイモが多かったですね、ジャガイモしか覚えていません…

主人の両親は福島で農家をしていて、お米や味噌は全部自分のところで作りますから、それを送ってもらっていました。お正月のお餅は、豆を入れたりとか、海苔を入れたりとかいろいろなお餅を作るのですが、それを送ってもらっていました

ただ、終戦直後は送る便がないですから、夫が休みのときに田舎に行ってお米や野菜をもらって帰ってくるわけです。でも、途中で検査があってとられちゃう。お米や食べ物なんかそういうものが全部没収されてしまうのです。結局、闇屋さんと間違えられちゃって。自分で食べるためにもらってきたと説明しても駄目なのです。

（平成２５年８月９日）